

## 認知症地域ケア実践にかかる研究

～認知症高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活するために～

### 1 はじめに

認知症地域ケア実践研究会（以下「研究会」という）は、兵庫県社会福祉事業団の特別養護老人ホームを始め認知症高齢者グループホーム、認知症対応型デイサービス等（以下「施設等」という）、認知症高齢者へのケアに取り組んでいる施設の職員と精神科医、作業療法士で構成する研究会として活動している。

当研究会は、以下の項目を目的として活動してきた。

- ① 認知症高齢者が住み慣れた地域で、様々な地域資源との連携により、安心して生活できるような取り組みの実践と検証を行う。
- ② 研究成果を施設内にとどまらず、広く地域や県下に情報発信し、地域でのケアや特別養護老人ホーム等における認知症高齢者への適切なサービス提供に寄与する。

今回、研究会では、認知症予防ドリルとして考えられた「脳リハ練習帳」を活用し研究を行った。

### 2 研究方法

認知症を有する高齢者を対象者に「脳リハ練習帳」に取り組み、併せて、高齢者の知的機能検査等（以下「認知症検査」）を実施し検証した。

各施設等において利用者に「脳リハ練習帳」を導入する前に認知症検査を実施する。その後、利用者に合わせて「脳リハ練習帳」に取り組めるよう援助し、日常生活のプログラムに組み込み行う。取り組み後、3ヶ月後、6ヶ月後に再

度、認知症検査を実施し、数値で表される評価を行った。

各種検査を実施するにあたり、研究会に参加する職員を中心に検査手法及び脳リハ練習帳の使用方法について研修を実施する。また、各施設等において、認知症ケア推進チーム（以下「チーム」という）を設置し、施設全体で情報共有できるように行った。